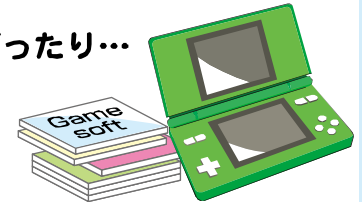




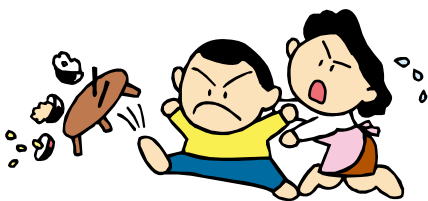
反抗期の子にはどのように接したらいいの？

- 自分から「行きたい！」と言って通っていた塾を、時々サボったり…
- 貯めていたはずのお小遣いがなくなっていて、ゲームソフトが増えていたり…
- 悪いことをして叱ったら、猛反発されたり… など、



“**小学校高学年**”くらいになると、自分の意志で自由気ままに行動することが多くなってきます。こういった時、どのように軌道修正していったらいいのか悩まれるお父さん・お母さんもいらっしゃるのでは…？ また、小学校の高学年と言えば、そろそろ“**反抗期**”になるうかという年頃です。反抗期になると、それまでになかった姿を見せることも多いでしょう。

こういった時、お父さん・お母さんがやってはいけないのは、**余裕のない態度で頭ごなしに叱りつける**ことです。「あなたがこんな子だとは思わなかった！」などの挑発的な言い方や、自尊心を深く傷つけるような言い方をすると、余計反抗的になるばかりか、お子さんを孤立させてしまうことにもなるかもしれません。



いくら強がってみせたところで、まだまだ親に頼らなければ生きていけない弱い立場にあることは、お子さん自身よく分かっているはず。ですから、お父さん・お母さんは自身が強い立場にあること、保護者であることを自覚して、余裕をもって落ち着いた態度でお子さんと接することが大事です。

また、社会の規範から「こうするべき」と言うのではなく、「**お母さんはこうだと思うけど、あなたは思う？**」と、お子さんの意向を尊重しながら話をしてみてはいかがでしょうか？

決して、子どもと同じ土俵に立って“ケンカ腰”で話したりしてはいけません。

例えば、お子さんが勝手に自分の貯金を使ってしまった場合、「今本当に必要なものなら買っていいけど、いつかもっと欲しい物が出てきたときに買えないと寂しくない…？」といった風に具体的に伝えてみてはいかがでしょうか？ また、塾をサボった時は「どうして塾が嫌になったの…？」と、お子さんの心の変化を理解しようとする姿勢を見せてあげると良いでしょう。

もしかすると、学校や塾での友人関係が、お子さんの態度に影響を及ぼしているのかもしれませんが、もしそうだとした場合、なかなかお子さんの口からは話せないのが普通です。

だからこそ、お子さんができるだけ素直に話せるよう、根気よく穏やかな態度でアプローチし続けてみましょう。

